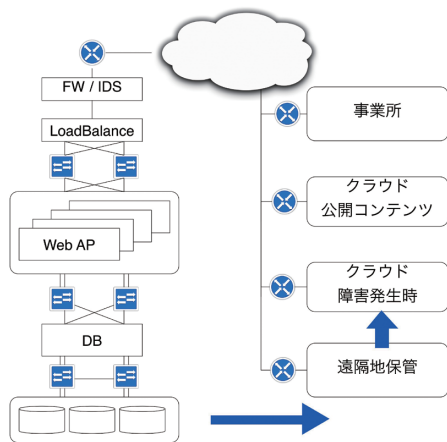


情報システムの設計・構築・運用・評価に関する研究

情報システムは、サーバ、ネットワーク機器、データベース、各種ソフトウェアなど複数の要素から構成される。年々、利用量や用途が増大し、近年では、オープンソースやクラウドも利用されている。システムが安定し、かつ拡張性も考慮した情報システムの設計・構築には、性能、運用性などの評価が求められる。

コンテンツ配信、負荷分散、遠隔地保管、VPN、情報共有、障害復旧など応用分野に応じた情報システムの方式設計を行い、実機、モデル化、またはシミュレーションにより性能、運用性、障害復旧時間など機能および非機能項目の評価を行なっている。構築にはオープンソースや公開されたデータセットを主に用いている。



情報システムは、障害によるダウンタイムを削減するために冗長構成を採るが、障害の発生部位や復旧目標時間により構成の検討が必要となる。安定稼働には、性能、容量、コスト、運用性などの設計・評価が重要である。

技術は年々進化し、それにつれて利用方法も広がっています。耐障害性やサービス性を向上させると、情報システム基盤のしくみは、わかりにくくなりますが、応用分野に適したシステム設計・評価ができるよう心がけています。情報システムの方式変更や改善に関心のある方はお気軽にご連絡ください。



黒瀬 浩 准教授

学部：工学部 学科：情報工学系
所属研究所：情報技術研究所
博士(情報学)。IT関連会社でシステム設計・ソフト開発に従事。科学技術振興機構研究員を経て、平成25年本学准教授就任。

Keyword

情報システム設計構築/次世代情報基盤/システム安定化